

目次

巻頭言……………鈴木 茂

論 文 魯迅と村上春樹における罪の意識

——父への罪の償い(「父の病」「藤野先生」と

父の罪の承継(『猫を棄てる』)……………藤井 省三

5

エッセイ 教師と学生を結ぶ

一片の月のもと、魯迅「三義塔に題す」を嘯く……………上田 功

22

フランス・フェミニズムを

紹介するゼミでの教育実践……………アンヌ・クレール・カシウス

24

文献の「内側」……………岩佐 一枝

27

職業としての外交……………山田文比古

32

特集『グローバルサウスと文学』

「翻訳論文 多国籍資本主義時代の第三世界文学

……………フレドリック・ジェイムソン(伊藤 達也 訳)

42

特別インタビュー 「征服された者の歴史が持っている負の重み、

ラテンアメリカ文学にはそれを感じるんですね」

……………第59回日本翻訳文化賞受賞……………野谷 文昭

59

コラム	忘れられない旋律……………	81
特別対談	京都を愛するさまざまな方法……………	95
	ミユリエル・バルベリ + 平野啓一郎	
随筆・紀行	フランクフルト国際空港にて……………	106
	亀山 郁夫	
訳者インタビュー		
	『あの音を求めてーモリコーネ、音楽・映画・人生を語る』……………	113
	石田 聖子	
著者インタビュー		
	『フォークナー 語りの力』……………	120
	梅垣 昌子	
書 評		
	『私たちは幸運だった あるユダヤ家族の離散と再会の物語』……………	127
	西村 木綿	
	『ネム船長の哲学航海記Ⅱ はじめての比較宗教学』……………	128
	伊藤 達也	
	執筆者紹介……………	129
	活動記録……………	130
	編集後記……………	132